

入選

心がまるくなる言葉

宮崎県 宮崎大学教育学部附属小学校

3年 高瀬史恩

人の心って不思議なもので、悲しい気持ちでいるときでも、だれかのちょっとした言葉や行動で、前を向く力になることがあります。

私は、小学校に入学した年の夏、目の手術をしたばかりという理由で、とても楽しみにしていたプールの授業を見学するしかなく、とても悲しい気持ちでした。そんなとき、クラスメイトに、

「今日もプール入れないの？私はプールそんなに好きじゃないからうらやましいな、でも、みんなと入れないのはさみしいね。来年は入れるといいね。」

と声をかけられました。その言葉は、2年以上たって、プールに入ることができるようになった今でも、心にのこっていて、私をはげますために、プールがあまり好きじゃないという気持ちを教えてくれただけでなく、プールに入りたい私の気持ちによりそってくれたその子の言葉に、今でも心がじんわりするのです。

なんでもないような毎日の中にも、小さな親切はかくれていて、私は、通学に利用するバスの中で、それを実感しました。

ある日、とてもこんざつするバスで学校から帰っていると、知らないおばあちゃんが、「ここにすわっていいよ。」と席をゆずってくれました。そのとき私は、本当だったら、私がおばあちゃんに席をゆずる立場なのに、私がすわってもいいのかな、と少しとまどいました。

すると、おばあちゃんは、

「体が小さい間は、バスが急に止まったときに、体ごととばされることがあるから、すわっていいのよ。」とやさしく教えてくれました。

そのような理由があるからなのか、同じバスで登校する高学年の男の子も、私に席をゆずってくれるので、もしかすると、その男の子も低学年のころ、同じようにだれかに席をゆずってもらったことがあって、そのやさしい気持ちを、他の人へつなげていっているのかな、と思いました。

体が小さいと、バスが急に停止したときにきけんだからという理由で、私は周囲の人に守ってもらっていますが、自分もだれかを守りたいというならば、体が大きく、たくましくなることも必要であるし、また、自分の大切なだれかにたいして、いつもやさしい気持ちでいるためには、心も強く、たくましくならなければ、と思います。

自分の心が強く、まっすぐ、たくましくなければ、まわりの人にやさしい気持ちでせつすることはできないと思うからです。そして、大切な人の悲しい気持ちによりそうためには、相手の気持ちを感じとることのできるせんさいな心や、少しでも元気づけることのできるようなユーモアも、持ちあわせていたいと思います。

また、自分が、身近な人だけでなく、一生に一度しか会わないような見知らぬ人にも、小さなやさしい親切で助けられている、ということをわすれずに生きていきたいです。